

# 無公害プラスチックを企業化

チ  
ツ  
ソ

# 光と微生物で分解

## 商品名「エコラン」米PCR社と提携

プラスチック廃棄物の処理問題がクローズアップされているとき、光りと微生物の作用によって完全に分解してしまうという新しいプラスチックが企業化される。チツソ（本社東京、島田賢一社長）が米国・ニュージャージー州のプリンストン・ケミカル・リサーチ社（PCR）から技術導入して手がけるもので、この「無公害プラスチック」に大きな関心が寄せられている。

このプラスチックは商品名を「エコラン」といい、PCR社が過去十年をかけて技術開発したポリオレフィン系の新しいプラスチック。光りによって分解するうえ分解したプラスチックはさらに地中のバクテリアによって完全に消費されて自然に還元されるという特性を持つ。しかも光りによる分解は二週間から一年間にわたって

これまでわが国でも光りによって分解する発泡（発う）スチロールや、ポリプロピレンの農業用結束ヒモ（チツソ製品）などが開発されているが、これらも地中にプラスチックとして残ることは変わりなかつた。それだけに、光り

プラスチック廃棄物は、燃却すれば高熱を発生して煙をこわすほか、塩素ガスなど有害ガスが発生し、土中に埋めれば水久にそのまま残って環境破壊につながるなど、その処理は大きな社会問題と

完全に自然に還元されるという。新プラスチックの企業化は注目

「エコラン」の分解進行状況（農業用マルチフィルム）

PCR社は、チツソと提携して、

んでいる。この間に農業用マルチフィルムのほか包装紙、ゴミ袋

袋、容器など用途面での研究開発を進める考えだ。

なおチツソは最近、公害防止産業にも進出しており、この「無公害プラスチック」に続いて、千度の高熱に耐える焼却炉やガス回収装置などを近く発表するという。

（東京支社）



新プラスチック「エコラン」の分解進行状況  
（農業用マルチフィルム）